

愛敬重之

2015年10月3日
第34期_後援会41号
発行責任者：愛敬重之後援会
会長 伊藤 久志



後援会だより

市民の安全・安心を基本に議案質疑・一般質問実施



皆さんこんにちは。

後援会の皆様には日頃からあたたかいご支援をいただき感謝申し上げます。

平成27年第3回市議会定例会では、議案質疑・一般質問と2回登壇させていただきました。様々な部署からの答弁をいただきましたのでご報告させていただきます。

◆ 議案質疑

1. 生活困窮者対策事業費について
2. 各施設の浴場使用料について

◆ 一般質問

1. 環境保全改善について
2. 獣害対策の電気柵について
3. 避難施設について
4. 市内で開催するスポーツ大会について
5. NTN総合運動公園サッカーグラウンドについて
6. 家庭用新エネルギー等普及支援事業について

議案質疑では

(1) 生活困窮者対策事業費について

①学習支援事業、家計相談支援事業の件数について(答弁：保健福祉部長)

この度、子どもだけでなく保護者も含めた支援対象者への説明、同意から、そのご家族の状況把握なども踏まえ、できる限り継続支援ができるよう、コーディネーターを配置し、集合型でなく個別型で、教える側とのマッチングを重ねていく計画をした。これにより、今年度3月までに、10人を目標として、桑名市の福祉事業としての学習支援事業を進捗していきたいと考える。

家計相談支援事業については、新規相談受付件数は105件あった。家計収支の均衡がとれていないなど、当該事業に対するニーズが、1月は2件でしたが、それ以降は毎月3件以上あり合計28件あった。これらのニーズに対するだけでなく、今後の当該事業に対する新たなニーズに対しても、対応できるよう、家計相談支援事業を進捗していきたいと考える。

②家計相談の中身について

家計収支の均衡がとれていないなど、家計に課題を抱える生活困窮者からの相談に応じ、相談者とともに家計の状況を明らかにし、生活の再生に向けた意欲を引き出した上で、家計の視点から必要な情報提供や専門的な助言・指導等を行なうことにより、相談者自身の家計を管理する力を高め、早期に生活が再生されることを目的とするものである。このため、先程の学習支援事業におけるコーディネーターと兼任ではあるが、家計相談支援員を配置し、家計管理等に関する支援を行なうもの。

(2) 各施設の浴場使用料について

①料金設定の根拠について(答弁：保健福祉部長)

個人の健康増進に加え、地域の高齢者同士の交流の場としての役割があることを認識し、これまで無料にしてきた。しかしながら、今後もこれまでと同様に利用してもらえるように、施設を維持していくためには、利用者の方に応分の負担をお願いするものとして、今回条例の改正案を提出した。根拠については、公衆浴場の入場料が大人400円であることから、老人福祉施設であることから、その半額の200円に設定した。

②使用料徴収の効果について

今回の条例改正は、利用者の方に応分の負担をもらうことで、浴場を今後も安定して継続利用してもらえるよう有料とさせていただく。有料化については、市民の方に理解してもらえるよう十分な周知を図っていく。

一般質問では

(1) 環境保全改善について

陽だまりの丘周辺の環境保全活動について(答弁：都市整備部長)

陽だまりの丘の北端に位置する、ホタルの里を含む、播磨2号緑地については、面積が約10ヘクタールと大きく、除草業務など委託しながら、できる限りの管理を行っているが、指摘どおり、一部に動物によるぬた場や、雑草の繁茂など、全体として十分な維持管理ができておらず、危険防止のため、やむを得ず散策路の一部を立ち入り禁止にするなどの処置を行なっているのが現状です。健康づくりや自然とのふれあいの場として、この緑地の散策路を活用していただければ良いということは十分認識しているが、行政のみで担うことは厳しい状況である。陽だまりの丘において、夏祭りの開催など、地域の方々が協力して、新しいまちの文化を築いていく気運の高まりもあるとのこと。今後、緑地など自然環境を保全および活用していくことにも、提案いただいたように、民間の方々と行政が互いに連携して取り組んでいくことが出来たら、とても意義があり、行政としても非常に有難いこと。陽だまりの丘で公民連携のまちづくりを展開していける仕組みづくりを、皆さんと一緒に検討していきたいと考えている。



散策路の現状



ホタル飼育小屋

(2) 獣害対策の電気柵について

安全対策について(答弁：経済環境部長)

7月の事故を受け、市内で設置を把握している電気柵の電源を調査したところ、いずれも市販の電牧器を介していること、また、適正な電圧で使用していることを通電確認用のテスターを用い確認している。しかし、電気柵の材料などは、ホームセンターなどで簡単に入手できること、また、設置の際、届出の必要がないことから、市内全体での設置件数は把握していない。今後も電気柵の設置を検討している農家の方等に、正しい電気柵の知識を持ってもらい、危険を知らせる表示板の設置や電気柵の改造を行なわないなどの安全対策を実施してもらえるよう、啓発活動を進めていく。

(3) 避難施設について

①地域住民と意見交換会の内容について(答弁：市民安全部長)

今年の5月29日に伊曾島地区市民センターにおいて開催したもので、その内容は大きく3点あった。1点目は、地域防災計画における伊曾島地区の緊急指定避難場所及び指定避難所について。これは、平成25年6月の災害対策基本法の一部改正を受け、今回、改めて指定避難所等を指定し直したことの報告を実施した。2点目は、今年度の長島地区事業予定について。これは、県北部海拔ゼロメートル地帯対策事業における本市の今年度の取り組みの報告を実施した。また、昨年度に引き続き実施する東名阪自動車道法面を活用した一時避難場所の整備(6ヶ所)、津波避難計画の策定、デジタル同報系防災行政無線の整備について報告を実施した。最後に3点目は、伊曾島地区自治会連合会より津波避難施設について独自の検討結果を報告してもらい、津波避難施設の必要性等について意見交換を実施した。



東名阪一時避難場所

②県北部海拔ゼロメートル地帯対策協議会により市町が実施する対策について

「市町が実施する項目」で、市町避難計画の作成、市町津波避難施設等整備計画の作成、避難者移送方法の確保、津波避難ビルとの通信体制確保の4点の進捗状況等と今後も県北部海拔ゼロメートル地帯対策協議会がされていくのかについてだが、特に進捗状況については、市町避難計画及び避難施設等整備計画の作成については、今年度、津波避難計画を作成し、その後洪水避難計画、土砂災害避難計画と進めている。避難者移送方法についてもゴムボート、救命胴衣の購入、また避難ビル等との通信体制確保においても無線機の購入に向け、今年度予算計上したところ。今後の県北部海拔ゼロメートル地帯対策協議会についても、引き続き検討会議も開催されることとなっている。

(4) 市内で開催するスポーツ大会について

①ロードレース大会復活について(答弁：総務部長)



最後のリバーサイドマラソンで市長の伴走を務める

桑名リバーサイドマラソンは、堤防上がコースとなっており、参加者から、コースの状況や設定について幾つかの意見をいただいた。参加者の声に応えるのは難しいことや大会運営において必要であるボランティア要員の確保も困難になってきていたことから、平成26年3月の第10回をもって終了した。マラソン大会のような全国的な大会の開催は、桑名市の観光名所や特産品など、桑名市のブランド力を全国に発信する良い機会となることに加え、健康志向の高まりから、市民がスポーツに関心を持つようになり、スポーツに触れる、見る、応援するなど、日常的にスポーツに関わるきっかけづくりにもなると考えている。そこで、今後多くの市民の意見と協力がいただける大会が開催できればという思いもあり、引き続き関係団体と協議していく。

②桑名市民駅伝について

平成20年度の37チーム、239人から、少しずつではありますが、年々増加し、平成26年度には59チーム、365人となった。今後、更に良い大会にするためには、参加者数を増やすことは重要である。参加者の増加により、多くの方々々にNTN総合運動公園の良さを知ってもらう機会になることから参加資格の緩和や適正な参加費について、関係団体の意見も伺いながら、検討していきたい。



市民駅伝の開会式

(5) NTN総合運動公園サッカーグラウンドについて

①供用開始後の様々な問題点について今後の対応は(答弁：総務部長)

現在、利用者から寄せられている主な要望としては、「日除け」や「観客席」、「更衣室」、「テント」、「担架」の設置などがある。「テント」、「担架」の設置など、早急に対応できる要望については、随時対応させてもらう。「日除け」や「観客席」、「更衣室」については、設置場所や配置などの関係もあるので、今後、NTN総合運動公園を整備していく中で、関係部署とも協議をしていく。ラグビーでの利用については、現在、グラウンドの大きさの関係上、小中学生を対象

とした利用に制限させている。ゴールポストについては、今後、ラグビーでの利用頻度やグラウンドの人工芝への影響を勘案し、検討していく。

(6) 家庭用新エネルギー等普及支援事業について

①住宅用太陽光発電システム補助金の見直しについて(答弁：経済環境部長)

桑名市では、エネルギーに関し、「創る」、「省く」、「賢く使う」、「学ぶ」を4本の柱としました。スマート・エネルギー構想を平成25年3月に策定し、その推進に努めている。その4本の柱のうちに「創る」に関連する事業の一つとして、住宅用太陽光発電システムなどの設置を促進するため、設置に係る費用の一部補助を実施している。スマート・エネルギー構想における本事業の目標でもある一般家庭・事業所・公共施設への太陽光発電システム設置推進について、平成27年3月末時点では、その数値目標に対し約33%の達成状況となっており、今後も事業推進の必要性を感じている。また、今年度の申請状況については、昨年度の9月1日時点と比較すると幾分か申請件数が少ないように思われます。桑名市として、スマート・エネルギー構想推進のため、今後も太陽光発電システムなどの普及に努めなければならないと認識している。しかし、国のエネルギー政策などにも変化が見られるなか、指摘のとおり本事業のあり方についても、本市のスマート・エネルギー構想が掲げる「エネルギー自立都市」に近づけるため、より効果的な手法を考えていく。

最近の活動状況報告

NTN総合運動公園の多目的運動場(400mトラック)ですが、待機する場所が無く使用される方々から何とかならないかと意見をいただいていた。

最近の気温上昇や、急な気候の変化(ゲリラ豪雨や落雷)で待機場所の必要性はかなり高くなってきました。以前より倉庫の有効利用を行政に対しては訴えていました。本年8月末にやっと完成しました。この事業に関しては、4年以上がかかってしまいました。写真でご報告します。



サッカーゴールが無くなった倉庫

倉庫の半分を待機場所と提案



8月末に完成しました。多度山の間伐材で作成したベンチも入りました

以上

JAM組織内候補

「藤川しんいち」さんを応援しましょう



愛敬重之公式HP : <http://www.aikyo-kuwana.net/>

